

7. 平成 23 年度全国エコタウン会議 開催報告

7.1 開催概要

(1) 全国エコタウン会議

〈日時〉平成 24 年 3 月 1 日（木）13：00～17：25

〈場所〉三田共用会議所 1 階講堂（全体会）、3 階 C 会議室、D 会議室、E 会議室（分科会）

〈参加人数〉自治体 23 名、事業者 13 名 詳細は（別紙）参照

〈プログラム〉

① 全体会

- 開会挨拶
- 基調講演「エコタウンの達成と今後の展開にむけて」
- 環境省及び経済産業省 エコタウンに関連する最近の動向
- モデル自治体からの発表 「実証プランの概要」

② 分科会

- 第 1 分科会 「環境地域づくりへのエコタウンの貢献」
- 第 2 分科会 「エコタウンと国際間の課題」
- 第 3 分科会 「エコタウンとグリーンイノベーション（環境ビジネス）」

③ 全体会

- 3 分科会のモデレーターからの報告
- 総括

(2) エコタウン事業者施設への見学

〈日時〉平成 24 年 3 月 2 日（金）9：30～17：00

〈場所〉川崎エコタウン地区

〈参加人数〉自治体 8 名、事業者 6 名、事務局 7 名 詳細は（別紙）参照

〈見学先〉

- (1) 三栄レギュレーター ミックスペーパーリサイクル
- (2) JFE プラリソース（水江原料化工場、NF ボード製造工場）
JFE アーバンリサイクル（家電リサイクル工場）
JFE 環境（ペットボトルリサイクル工場）
- (3) 川崎エコ暮らし未来館 浮島メガソーラー、展示施設

7.2 平成 23 年度 全国エコタウン会議（実施概要）

7.2.1 全体会

(1) 開会挨拶

- ・環境省 リサイクル推進室 室長 森下様から開催に当たっての挨拶。
- ・経済産業省 リサイクル推進課 課長 渡邊様から開催に当たっての挨拶。

(2) 基調講演

「エコタウンの達成と今後の展開にむけて」

藤田 壮 国立環境研究所 環境都市システム研究プログラム総括

- ・ エコタウン事業の歴史とこの 15 年の取組について、エコタウンの必要性や担ってきた役割について紹介があった。特に、エコタウンの貢献としてリサイクル法を円滑に推進する上で重要な役割を担ったこと、また、環境負荷削減効果の面でも大きな寄与を果たしている点などの研究事例をご紹介頂いた。
- ・ 今後のエコタウンの高度化に向けては、廃棄物処理・リサイクルという側面だけでなく環境未来都市、環境イノベーションという観点から、どのように事業基盤を強化していくべきかについて報告を頂いた。

(3) エコタウンに関連する最近の動向

- ・ 環境省 リサイクル推進室からエコタウン事業や小型家電の法制化の動向について取組状況のご報告があった。また、来年度事業での応募について積極的に対応頂きたい旨、連絡された。
- ・ 環境省 循環型社会推進室から地域循環圏の取組状況についてのご報告があった。
- ・ 経済産業省 リサイクル推進課からレアメタルリサイクル、リサイクルに係る国際的な活動について、最近の経済産業省での取組・施策などについてご報告があった。

(4) モデル自治体からの発表 「実証プランの概要」

- ・ エコタウンのモデル事業について、実施自治体からの実施計画進捗状況について報告頂いた。ご報告者は以下のとおり。
- ・ 川崎市 環境局理事 環境技術情報センター所長事務取扱 牧 様
- ・ 北九州市 環境局環境未来都市推進室 環境技術開発担当係長 富本 様
- ・ 北海道 環境生活部環境局循環型社会推進課循環推進グループ 主査 八川 様
- ・ 秋田県 産業労働部資源エネルギー産業課 副主幹 石田 様
- ・ 大阪府 環境農林水産部循環型社会推進室資源循環課 総括主査 西尾 様

7.2.2 分科会

- 以下の3つの分科会を、各モデレーター中心に開催した。
- それぞれに参加者から活発にご意見を頂き、短時間で充実した意見交換ができた。
- 分科会の実施内容については、分科会報告に概要を記す。

○ 第1分科会 「環境地域づくりへのエコタウンの貢献」

- モデレーター：藤井 実 様（国立環境研究所 社会環境システム研究センター）

○ 第2分科会 「エコタウンと国際間の課題」

- モデレーター：松本 亨 様（北九州市立大学 国際環境工学部 教授）

○ 第3分科会 「エコタウンとグリーンイノベーション（環境ビジネス）」

- モデレーター：小野田 弘士 様（早稲田大学 環境総合研究センター 准教授）

7.2.3 全体会（クロージングセッション）

(1) 3分科会のモデレーターからの報告

- ・各分科会のディスカッション内容について、それぞれ分科会のモデレーターより報告があった。

○ 第1分科会報告 藤井モデレーター

- エコタウンの地域づくりに対する貢献について意見交換を実施。
- エコタウン事業は、地域で活動していく中でリサイクルの必要性、廃棄リサイクル処理の費用負担のあり方など制度と関連性が高いため、きちんと説明をしておかないと事業の意義がメリットとして伝わらないという点について意見があった。
- エコタウンの課題としては、リサイクル対象物の不足が共通的にあること、リサイクル事業の中での優先度（どこまでリサイクルすべき）など意見があった。
- その他、製品設計でリサイクルを配慮することの重要性、廃棄物処理法（特に一般廃棄物）の厳しさなどについて、リサイクル事業者の立場から意見があった。

○ 第2分科会 松本モデレーター

- 大きく3つの観点から議論を実施。1点目は国際資源循環、2点目がエコタウン協力の課題、今後の方策。3点目が、静脈産業の海外展開の課題、今後の方策、国への指針と望む支援についてである。
- 1点目の国際資源循環に関して、海外流出の課題と今後の国での取組強化への期待について意見があった。特に国内循環のインフラ維持として、適切な範囲で国内処理がなされること、海外からの要処理物の輸入も含めた展開の可能性などご意見があった。
- 2点目のエコタウン協力について、まず、成長戦略としての位置づけを持っており、

国の事業を実施するだけでなく人材育成を進めることの重要性についてご意見があった。この際に、協力事業展開の窓口・手順など明示してもらえると取り組み易いというご意見があった。

- 3点目の静脈産業の海外展開について、まず、海外進出した国内企業への支援が必要で、エコタウン事業者の進出も日本企業にしかできない処理ということがターゲットとしては大事であるというご意見があった。この際に、しっかり日本側が条例や計画整備に関わることで、欧米に先んじて日本企業が進出するという点の重要さが指摘された。ここでは、国同士の対話、それから自治体同士のエコタウン協力、それから民間企業の進出ということ、パッケージとして、動くことが非常に有効であるということが今後も必要というご意見があった。

○ 第3分科会 小野田モデレーター

- エコタウン事業の課題として、原料が集まらないという点が、毎回課題として挙がっており、原料が海外に流れてしまっていることの問題点が指摘された。合わせて物流の仕組みの重要性、例えば、特区などを考えるときに、その保管の問題にそこに焦点を当てた戦略も必要ではないかという意見があった。
- 連携体制を作ることの重要性が指摘され、参加者も情報を求めている。今回のような会合の開催頻度を増やしたり、事業者の技術的な問題も含めて検討する場があることの重要性についてもご意見があった。
- 事業強化では、現実問題として海外の技術のほうが勝っている部分もあり、そこを含めてイノベーションするという観点の必要性、技術開発の支援だけでなく普及戦略と繋げることの必要性についてご意見があった。
- 環境ビジネスとしては、循環系に限らず、エネルギー、水などのユーティリティの問題も含めて、総合的に考えた仕組みづくりが、まずベースとして必要なのではないかというご意見があった。

(2) 全体総括（国立環境研究所 藤田 氏）

- このような機会を定期的に持ち、情報の共有を行うことの重要性をご指摘頂いた。
- 循環ビジネスのとしての持続性は、モノが集まることが原点にあることをご指摘頂いた上で、不法投棄の取り締まりや、廃掃法の改正などで、モノが回ってくるようになったこと。資源価格の高騰で国内循環傾向が強まったことなど、ご紹介頂いた。
- しかし、現在は中国に流れて集まらないという状況を踏まえ、一般廃棄物分野での連携の重要性や不法に海外に流出しているゴミは対策への積極的対応など、国などの取組の必要性についてご指摘頂いた。
- 国際連携については、人材教育とか街づくり、規制の仕組み（分別ルール等）など総合的に海外に展開していく必要性をご指摘された。
- 実態を踏まえると、日中韓での大きなプロダクトチェーンを見据えて、それぞれのエコタウンが何を担うべきか、少し広い目で見ること、長期的な国際連携につい

ては重要であるのご意見を頂いた。

- 最後に、地域に根ざしたエコタウン事業として、環境全体を見据えた取組の必要性についてご意見を頂いた。地域環境力を高めることが重要であり、そのための財産がエコタウンであり、国としても支援する新しい未来型のエコタウンの事業をしていただきたいというご指摘を頂き、総括とされた。



全体会



藤田先生基調講演



自治体からのモデル事業報告



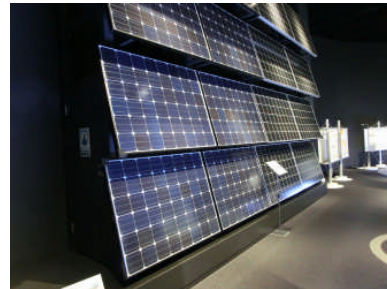
第1分科会



第2分科会



第3分科会



見学会（川崎エコ暮らし未来館 浮島メガソーラー）

図 7-1 平成 23 年度 全国エコタウン会議 実施状況